

「放射線学校教育」の座長 原康夫 の感想

仮説実験授業研究会の会員である山本海行さんと山田明彦さんによる講演「たのしい放射線授業が目指すもの」は、仮説実験授業研究会で作成された、授業プラン「霧箱と放射線 - 原子より小さな世界へ - 」の目指すものの紹介、および霧箱を使用した小学校での実践報告である。

序論で、山本さんは社会を科学的に見ることについて議論したが、湯川秀樹博士の「日本では科学というものがあまりにも狭く考えられている。私たちの日常の生活態度が合理的になるということが、広い意味における科学の進歩である」という文章を改めて思い出した。

線量率の数値を表示するブラックボックスの放射線検出器ではなく、放射線を可視化する（名大の林熙崇博士が開発した）手製の霧箱を使用することによって、小学生にも楽しい授業になり、また原子より小さな世界の存在を認識させることに成功している。

霧箱で見える飛跡とシーベルトをつなぐ授業プランが実現することを期待したい。

秋田県の「博士号教員」である瀬々将吏さんの講演「中学校教員を対象とする放射線研修会報告」は高度の学識をもつ3人の博士号教員が協力して研修会を成功させ、博士号教員の意義を認識させた報告である。時間の関係で詳しい話が聞けず残念であった。